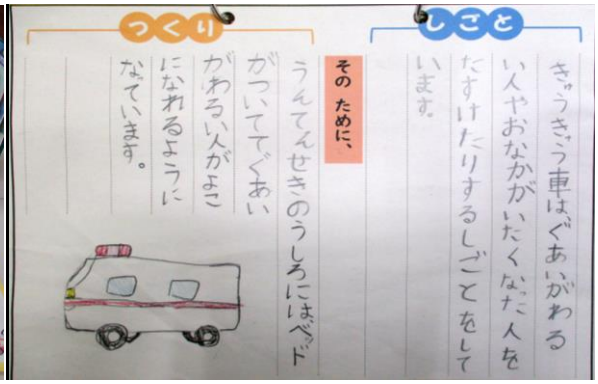
えんじゅ

春日市立春日小学校
校長室便り　No.17
令和６年１月19日
文責：校長 福島

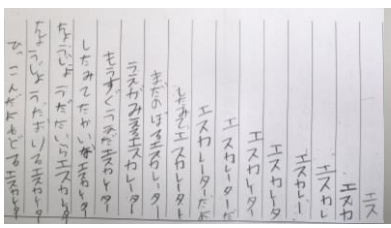
はみ出す学び

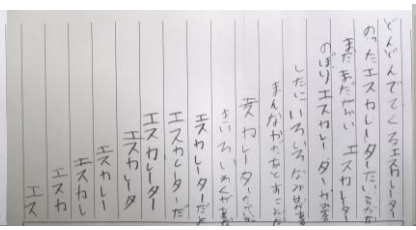
毎日子供たちがわくわくして学校に来てほしいと願っています。そのための仕掛けを考えるのが私たちの仕事です。学校は学びの舎、毎日の授業がわくわくするものになるよう最も力を入れています。

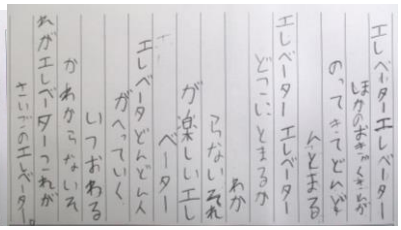
時々、子供の意欲が45分間の授業からはみ出すことがあります。



この写真は、図書館においてある１年生がつくった「じどう車ずかん」です。１年生の国語の教科書に「じどう車くらべ」という説明文があります。自動車のつくりと働きを学び、自動車とともに文章の構成に興味を持った子供たちは、自分たちのじどう車ずかんをつくりました。「みんなに紹介したい」という目的意識をもって自分の好きな自動車を選び、休み時間に自分で調べた子供もいたそうです。図書館でたくさんの子供たちに読まれています。







これは、３年生がつくった詩です。言葉遊びとして詩の工夫の学習があり、教科書に「かいだん」という詩が載っています。改行を工夫して階段状に言葉を並べた詩です。それをヒントに「エスカレーター」や「エレベーター」という詩を作っています。私はこの「エスカレーター」をつくる授業に偶然居合わせました。よく見ると詩の形が最後は水平になりさらに巻き込まれているのです。私が「すごいねえ」とほめたところ、休み時間に下りを作ったそうです。それを見ていた友達が「エレベーター」を作ったそうです。なんてすばらしい学びでしょう！

家庭で、授業の話をすることがあるかもしれません。それはまちがいなく「はみ出す学び」です。何がはみ出しているのか興味を持って聞いてあげてください。はみ出す部分が大きくなるほどすてきな学びになっていきます。その積み重ねが、わくわく感の醸成です。

学力育成部には目指す子供の姿があります。学校では「授業が終わった時その授業の続きが楽しみだ」、家庭では「家庭で ？ を見つけ、聞いている」です。

本物の学びは、与えられるものではなく、子供の「やりたい」に支えられたものです。